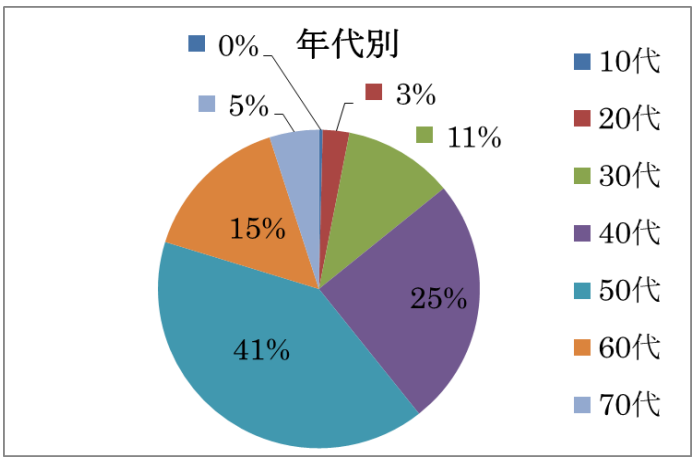
府民公開講座　花戸貴司　氏　講演会
ご飯が食べられなくなったらどうしますか？　～永源寺の地域まるごとケアに学ぶ～
＜アンケート集計結果＞

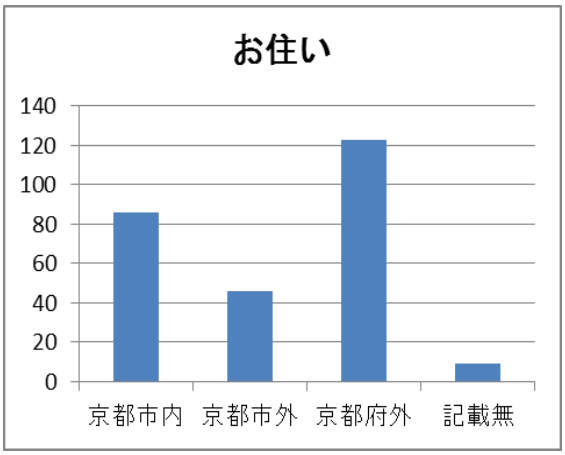
たくさんの方にご参加いただき、無事に府民公開講座を終了させていただきました。
ご参加いただいたみなさま、関係者のみなさまありがとうございました。
ご参加いただいた方からのアンケート結果を集計いたしましたので、ご報告いたします。

１．開催日時　：　平成２８年２月２０日（土）　１４時００分～１５時３０分

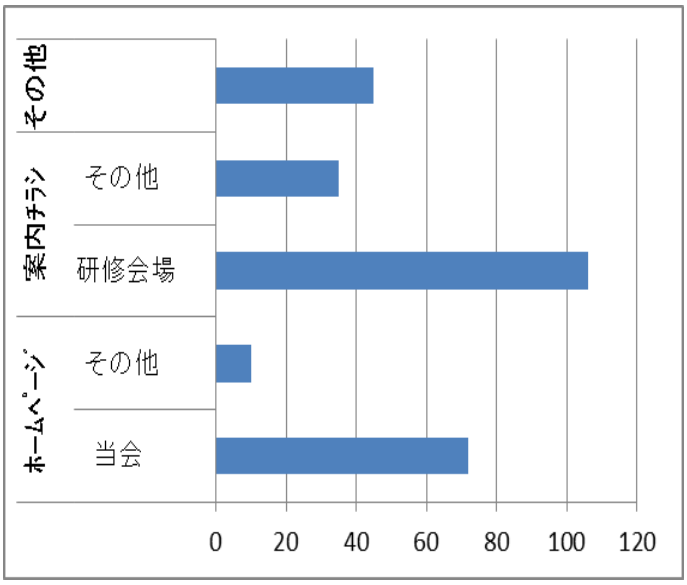
２．開催場所　：　京都テルサ　１階　テルサホール

３．参加者　：　３４３名
〇アンケートにお答えいただいた方
２６５名（うち、男性４５名　女性２１４名　記載無６名）





■この講演会をどちらでお知りになりましたか？
（複数回答有）



■この講演会に参加された理由を教えてください。
（複数回答有）

花戸氏のファンだから	28 名
テーマに関心があったから	230 名
毎年参加しているから	4 名
その他	21 名

■講演会について（感想）

たいへんよかった	220 名
よかった	31 名
どちらともいえない	2 名
ややものたりなかった	0 名
期待外れだった	0 名
記載無	11 名

■本日の感想や今後の府民公開講座のテーマとしてご希望があればご記入ください。

- 苦労された話ではなく良い結果をたくさん示して頂き、おかげさまでがんばっていこうと思いました。地域包括ケアシステム構築の一助として目指す方向がみえた気がします。
- なんとなく聞く気持ちでしたが、涙したり笑ったり考えさせられたりと、良かったです。
- 事例を通して地域での色々な取り組みをご紹介いただきよくわかった。他の支援者のコメント・意見も聞ければよかった。
- テーマから、胃ろう等の栄養療法についての話だと思って参加したので、若干期待内容とは違いましたが、大変勉強になりました。
- ”互助”は実例などの取り組みの紹介など、”自助”は自分自身の心構えなどを聞かせていただきました。互助がなかなか難しいと思いましたが、出来ることから少しずつ取り組みたいです。
- 施設のケアマネをしていますが、看取りについて改めて考えさせられました。どこに居てもその人らしく、ということを今後も考えていきたいと思います。
- 認知症の方、家族の方、一人暮らしの方、こまった時いつでも声をかけあえる互様の心を持たなくてはと、改めて思いました。ボランティアなど地域の高齢者の力になればと思います。
- 地域包括ケア…地域と共に生きることの大切さを再度確認できました。その人らしく生きる、その中には物語があり、物語をみんなで作っていくことだと思います。
- 最期まで自宅で暮らす事は地域の協力や医師の協力がないと実現が難しいのが現状です。永源寺地域を１人の医師で支えておられるのは、地域や事業所の方たちと共に、高齢の方から赤ちゃんまでみんなで支え合って生活できる街づくりに取り組まれているからだとよくわかりました。
- 施設や病院が近くにある便利なところに住んでいることが幸せとは限らないのだと感じました。
- 地域まるごとケアがどこででも出会えるような社会であってほしい。特別なことではなく、望んでかなうことになれば良いと思いました。
- 地域包括ケアは本当にできるのか不安に感じていたが、永源寺の事例を聞き、専門職の連携や大きな事ばかりでなく、”話し相手”も大切だと感じた。地域でできることから改善ができると思う。
- 安心して生活できる地域づくり、生きることを若い世代に伝えること。地域のために何ができるか。地域まるごとケアにはまだまだ垣根が一杯。”仕掛け人”が必要ですね。
- 医師・看護師・栄養士・薬剤師などの専門職の方、地域の方々とお互いの強みや特徴をいかしながら支え合う。“内輪”ではなく多くの方と連携して地域づくりを進めていかなくては。
- 私はケアマネをしていますが、地域を巻き込むということが本当に大変なことを日々感じています。本日の先生の話をきいてもっとがんばれることがあるのではないかと思いました。
- 地域全体で認知症の方に手をさしのべられている事にとても感じ入りました。私達の地域では「となりは何をする人ぞ」の感があり、永源寺地域と同じケア・同じ仕組みが作れるようになるのはまだ先だと思いますが、利用者が望む場所で人生を全うして頂けるよう支えていければと思いました。
- 子どもに看取りを見てもらう…看取りでなくても１人の人にみんなが一生懸命かかわって、支えている姿は、学校では学べない事だと思います。昔は家で亡くなるのがあたりまえで、自然と学んでいた”命の重さ”が今は希薄になっています。先生の取り組みは本当にすばらしく、とても感動しました。
- これからの在宅の看取りには先生のような医者が必要になってくると思います。いい町ですね。「やっぱり家がいい」気持ち、よくわかります。

- 自宅で過ごしたいと思う人の想いにこたえられるように支援したいと思います。
- 病院で「家に帰れる状態ではない」と言われた利用者様が本人の希望で自宅に帰られ、短い間でしたが笑顔で過ごされておりました。その笑顔が私の栄養になっています。医療・生活等を同じ思いで支えて下さる花戸先生の様なお医者様が増えて下さることを祈ります
- とても感動しました。自宅で家族のそばで最期を迎えること、家族の最期を看取ることができたらいいなぁと思っています。又、仕事柄希望される方には看取りができるサポートをしたいと思います。
- 年老いても自分らしく過ごしたいと多くの高齢者が望んでも実現が困難なことがあるが、医療・介護だけでなく地域のサポートがあれば可能になると感じた。地域チームを作っていける一員になりたい。
- どんな時も人として悩みながら考えることが大切、それがお別れの時間を過ごすということだと先生からお聞きして、高齢の母のことだけでなく、地域の高齢者の方ともっと寄り添っていこうと思いました。
- 「悩みながら考える、それがお別れの時間」というお話、利用者のご家族にもその思いを伝えていきたいと思います。
- 地域で医療を提供するというのは地域づくりであるという言葉が印象的でした。人が人らしく生きることの意味を考えさせられました。ありがとうございました。